

# 山寺通信 8月号

いよいよ夏本番になりました。ここ数年水でお茶を淹れることが普及してきました。「冷茶」と言うくくりではなく日頃飲んでいるお茶をお湯でなく水で淹れるということです。飲み方というより湯の温度により飲み分けると言うことができればお茶の需要は広がり、また日常的なものとして再構築できます。「急須」を定義すると、茶漉し網と一体になったお茶を淹れる道具になります。専門店が物を売るときは、シンプルに長所、短所を説明できるようにしっかり認識することから始まります。現在売り出しているキャリーティーボトルもガラスの急須になり細かな注意事項を知って消費者に対峙する必要があります。急須にしては、組み立てて使う物なので、人それぞれの性格、器用さで色々な問題が起こります。解説文で説明してありますがガラスのネジ式の締め方(まっすぐ締める/斜めに傾けて締めない)事やパッキンの正しい装着、蓋の中に細かな茶葉を残さないと言う説明を販売現場で一言言っただければトラブルがなくなります。当社では、ネジの締め具合、シリコンの状態、ガラス部分のキズ等の全品検品をしています。それでも数件水漏れ等のクレームが寄せられましたが、ネジの締め方で解決しました。陶器の急須でも、お客様に使った後のケア(丁寧に茶漉しの部分を洗う)をお願いすれば、目詰まり等のイライラも少なくなります。茶の専門店にとっては、急須は大事な存在です。お茶を美味しく飲んで納得していただくための道具として認識してください。現在常滑焼や万古焼の職人が急速に減ってきています。また異業種や海外からの引き合いも多くなりより全体の供給は減っています。

ステンレスのファインアミ多くの急須にヒットするサイズを作りました。入荷予定8月下旬

楽焼 永柳光生 一品作

		
17-8-1 ¥8000 15/H8cm	17-8-2 ¥9000 15.5/8	17-8-3 ¥9000 17/6.5

新しいサイズが使える急須です

帯網急須より 200円  
高い価格になります



Y17-272



Y17-170



Y17-212



Y17-261



Y17-255



Y17-224



Y17-443